

開拓される鉄道土木

- 民芸的工法に基づく「関わりしろ」を持つ廃線跡地の建築提案 -

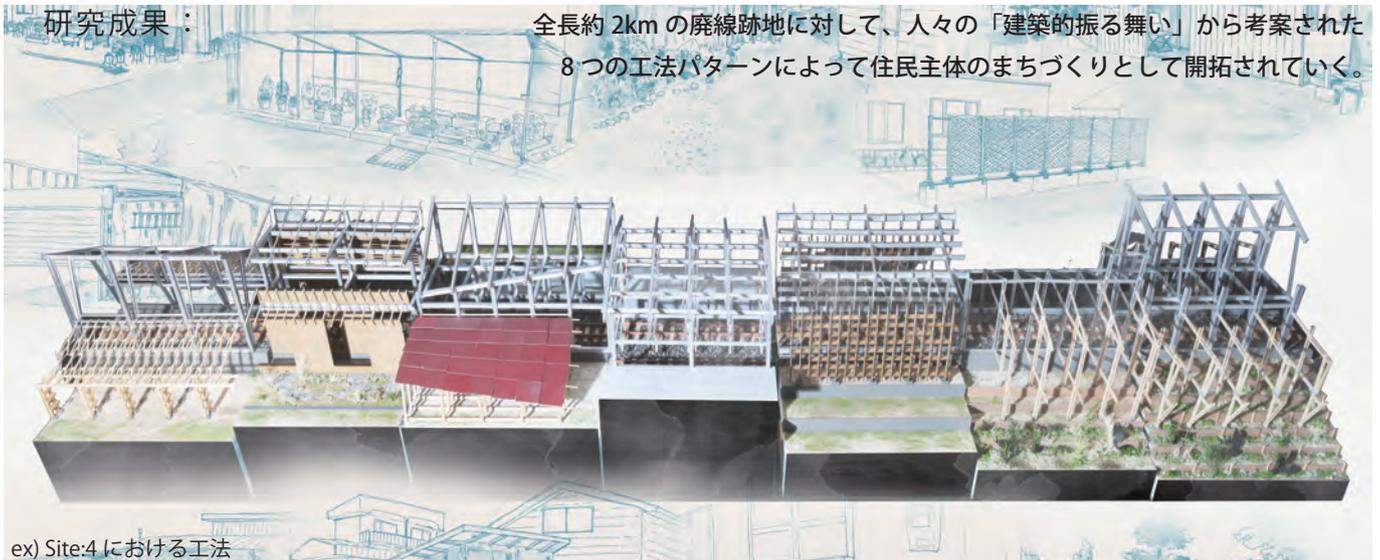
六角研究室 嶋谷勇希

研究概要：増加が予想される鉄道の廃線跡地をまちづくりの余白として捉え、街から収集された「建築的振る舞い」や車窓風景による特徴を解析し、一般住民が可能な工法によって作られる「関わりしろ」によって、まちづくりの一環として廃線跡地を開拓する提案である。

研究目的：日本において、鉄道の乗客の減少によって廃線跡地の増加が予測されるために、その遺構の積極的な活用方法を模索することや、まちづくりにおいて住民の主体性を持つための方法論の模索が目的である。

研究成果：

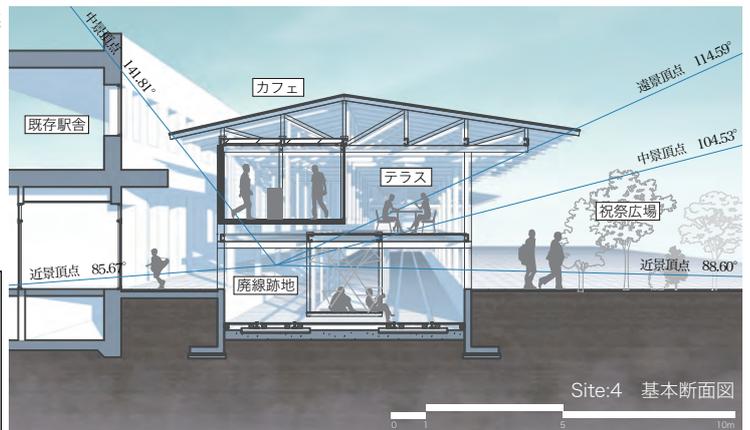
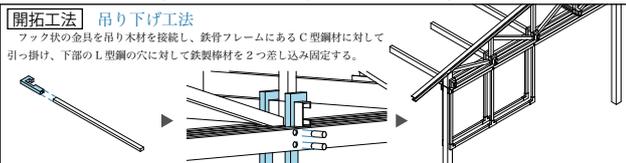
全長約 2km の廃線跡地に対して、人々の「建築的振る舞い」から考案された 8 つの工法パターンによって住民主体のまちづくりとして開拓されていく。



ex) Site:4 における工法

材料表 住民の人力で運搬可能な材料と工法提案

吊り柱 1	吊り柱 2	金具 1	金具 2
4.0kg	3.7kg	3.4kg	4.6kg
金具 3	床板合板	根太	壁板合板
5.4kg	6.4kg	1.4kg	2.2kg



苦労した点や感想など：

全長 2km の敷地に対してそれぞれ違った工法を考えることが、作業量としてとても多く苦労しました。また、それぞれ材料の寸法を決めたり、重さをエクセル上で調べながら、運搬可能な重さとなるように調整したりすることが難しかったと思います。しかし、その苦労の分、模型をつなげて見た時の壮観さに感動することができました。